

世界の腕時計市場 高級品で稼ぐスイス

2013年9月15日
朝日新聞
GLOBE

〔世界の時計メーカー売り上げランキング〕

(2011年。フォントーベル銀行調査。時計事業のみ)

順位	メーカー	主なブランド	国	売り上げ(億円)
1	スウォッチグループ	スウォッチ、オメガ、ロンジン	スイス	6310
2	リシュモングループ	カルティエ、IWC	スイス	5448
3	ロレックス	ロレックス	スイス	4240
4	LVMH	タグ・ホイヤー、ブルガリ	フランス	1671
5	シチズン	シチズン	日本	1617
6	フォッシル	フォッシル	米国	1574
7	セイコー	セイコー	日本	1261
8	パテック・フィリップ	パテック・フィリップ	スイス	1113
9	カシオ	カシオ	日本	1007
10	オーデマ・ピゲ	オーデマ・ピゲ	スイス	583

スイスの時計産業

スイスの時計産業は、フランスと国境を接する西部の山沿いに広がる。16世紀の宗教改革の際、フランスでカトリック教会と対立したカルヴァン派の新教徒(ユグノー)が迫害を恐れて国境を越え、カルヴァン派がいるジュネーブに逃れてきた。ユグノーには時計の手工業者が多く、18～19世紀にかけて時計づくりが農家の内職として広まっていく。資源に乏しいスイスでは、米国やドイツ、フランスのように自動車やエレクトロニクスが発展せず、金融や製薬とともに時計産業が大切にされた。⊕(和気真也)

日本の時計産業

日本の時計産業が始まったのは明治になってからだ。初の国産腕時計が登場するのは、服部金太郎が精工舎を起こした後の1913年だ。細かい作業が得意な国民性もあってか、その後、時計産業が発展していく。69年には、セイコーがクォーツ式腕時計を実用化し、世界市場で日本の存在感が増した。その後も、液晶デジタル腕時計が開発されたほか、シチズンの「エコドライブ」やカシオの「Gショック」など、さまざまな機能やデザインの腕時計が登場した。国内メーカーの腕時計は、この3社のものが大半を占めている。⊕(和気真也)

〔腕時計完成品の輸出量と金額の比較〕

(2012年。ピエールイヴ・ドンゼ京都大学准教授まとめ)

